

フォローアップ研修を受けて

気になること

■どうしても何年後かに…
という意識が拭いきれません。

リスクに向き合う難しさだと思います。リスクが小さくても人権面での配慮が必要だと思います。リスクがあるとしても、どの程度のリスクかは線量から推測できますが、気持ちの整理には時間がかかることがあると思います。

■震災前とあまり変わらない生活を取り戻せている今…。
あまりに「アンケート」、「支援」など外部からの発信や福島を問題視されることが時折重く感じることがあります。

日常生活を送っていると、「福島は大変ね」と言われることに反発を持たれるのは当然のことだと思います。その一方で、周囲の人々が、事故がなかったかのように振る舞っているのではないかと反発する気持ちを持つ方もおられるのも現実だと思います（調べたから大丈夫だとできた野菜を提供なさろうとする地域の方への対応に戸惑いを持たれたり、保育施設の周囲で野焼きされる方に心が乱される思いをされている保育園長もおられました）。「支援」を断るのはパワーがいることだと思いますが、負担がある場合は、不義理をおそれず断りましょう。アンケート調査は答えるのだけに答れば十分です。現場の事情を優先させましょう。その上で、それぞれの方の思いが異なることを理解した上で、日常の生活をきちんと営むことが大切では…。

■屋外でのホットスポットが心配。目に見えない物なのでいつになったら…と不安になる。

ホットスポットによる線量は調べて対策を考えることができます。

研修の意義

■忘れがちになっている頭の中を思い返させてくれるいい機会です。
ひとつまとまりをつけられる研修かな…。

■専門家の先生より丁寧に教えてもらいありがたかった。とても勉強になった。

■いろいろな取り組みを保育園でやらせていることを知ることが出来るのでとても参考になった。押し付けではなく保護者の考えを尊重しながら、話し合いも大切にしていきたいと思う。

困っていること

■決断！（とある園長先生から）
決めることの大変さを園長先生だけに押し付けられないような工夫が必要そうです。皆で園長先生を支えよう。こちらでは、考えることのお手伝いできますので、お気軽にご連絡下さい。

■人手不足がある中でプラスこのような事業を進めていくのに時間がかかり金銭面での問題も大きい。

VOICE

■食材を県産にする判断（その判断材料、方法）、保護者への連絡の仕方（切り替える時のお知らせ）。

ご心配なさるのは当然なので、流通前の管理の実際を知る機会があってもよいのでは。事実や判断の根拠を伝え、保護者の方の疑問を専門家につなぐようにされてはいかがでしょうか。

気が楽になったこと

■今回、参加させて頂き、自分の施設だけが、悩みをもっているのではないと安堵する部分があった。

■正直、元気アップの申請等で負担に感じている点が多々あったのですが、他の地域の園の方々と交流をはかり様々な意見をお聞きすることができ、少し肩の荷がおりたような感じがしました。情報交換が大切だと思います。一人で抱え込まないように…。

■「放射線に対して、保育園に説明責任はないので専門機関を活用して欲しい」と言って頂いて肩の荷がおりました。

研究者は説明が大好きなので活用して下さい。もっとも、保護者にもその説明が伝わるかどうかが問題なので、間に入る地域の人材を活用出来るとういと思います。

■「事故は大きかったが放射線の摂取量は少なかった」という話に改めて安心感を得ることが出来た。

わかったこと

■自然物との触れ合いにおいて過度に心配する必要はないとの答えをもらい今後の保育に活かしていきたいと感じた。

■柿と干し柿の不思議に納得できた。(笑)
干し柿にすると濃度が高くなりますが、一個食べる場合の線量は同じです。

※蛇足だが、いなかでは全国的に食されていると今まで思っていたので驚いた。すみません。
私の田舎（関西）も昔は食べていたそうです。

■アンケート調査の方法で結果を上手く知らせていなかった事に気付かされた。

■自分たちだけで悩まず他の関係機関を利用することを改めて知った。
・どの園でも外遊びを取り入れて積極的に遊ばせているんだと、夏頃に比べると大分変わってきていることを実感した。

その他

■他の保育所の取り組みなど具体的なことが一番役立つと思うので、今後とも具体的な例を取り入れての研修をお願いしたい。

■もうすぐ3年経とうとしている今でも除染の問題や食に関して安心・安全を疑ったり、屋外遊びの制限を強いられたいしている現状があること。子供は日々、成長している。福島の子供たちが健やかに成長できる環境にして欲しい。

Q&A

Q1 水道水は大丈夫？

A1 このニュースの中に精度よく測った試みが紹介されています。水道水を濃縮して測ったところ、自治体の公表データと同様に1リットルあたり数ミリ・ベクレルとレベルが低いことが確認できました。ミリは千分の一を示します。

Q2 食品からの線量は？

A2 ホールボディカウンタや陰膳調査で調べられています。1年間の食品摂取による線量は数マイクロ・シーベルト程度である方が多いと考えられています。日本人が1年間で平均で受ける線量は約6千マイクロシーベルトです。

Q3 掃除機の埃を測ったら高い濃度の放射性セシウムが検出されました。

A3 掃除機に集まった埃の放射性セシウムの濃度が高くご心配だと思います。埃の濃度から普段の生活で受ける線量を推定できます。その線量は100ベクレルあったとして年間で1マイクロ・シーベルトに達しないと考えられます。掃除をすることでこの線量が減らせます。

Q4 放射線のことを勉強しないといけないの？

A4 放射線のことなんか考えたくないと感じていませんか？放射線に関連した業務に従事することに負担を感じておられませんか？

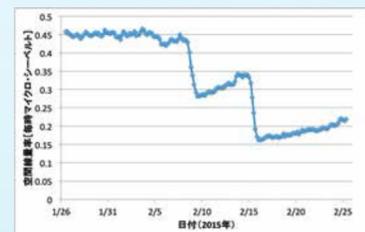
向き合うことが難しい場合は、ゆっくりとパワーを付けて、また、向き合えるようになるとういと思います。他の人に頼ることも大切でしょう。専門の学会では活躍の場を求めていますので、お困りの場合は、ご遠慮なくご連絡下さい。

Q5 保護者に説明するのが難しいです。

A5 専門的なことを理解して保護者の方に説明する必要はありません。ましてや安全であるとか危険であるとかを説得する必要はありません。細かいことは専門的な知識を持った方を活用しましょう。専門的なことを説明するのは専門家の責任です。専門家の活用でお困りでしたら、地域で間に入って頂ける方を活用しましょう。

Q6 モニタリング・ポストの数値が変化するのには空気中に放射性物質があるから？

A6 放射線計測では値が揺らぎます。空気中の放射性物質の量は減少しており、モニタリング・ポストの数値に影響を与えるレベルではありません。積雪により放射線の量は少なくなります。



▲積雪による線量率の変化の例(福島県福島市信天山子供の森公園)

Q7 除染しても再汚染するのでは？

A7 降下物による再汚染の程度は小さいと考えられます。山からの雨水などの流れ込みによる再汚染の程度は測定で確認できます。

保育士の皆さまへ

保育士研修 フォローアップニュース



- ★ 保育士の声
- ★ フォローアップ研修を受けて
- ★ 研修後の取り組み
- ★ こどもの遊びの工夫
- ★ フォローアップ研修に参加したスタッフからのメッセージ
- ★ 自然遊びをどうする？
- ★ Q&A

国立保健医療科学院
National Institute of Public Health

国立保健医療科学院 生活環境研究部
〒351-0197 埼玉県和光市南2-3-6
TEL (048)458-6259 FAX (048)458-6270

保育士の声

研修後に取り組んだこと 工夫したことの事例

1 認可保育施設、定員50-100名、
2014年1月の線量率：毎時約0.2マイクロ・シーベルト

- サンルーフにてプール遊び。
- 園内の小動物（昆虫・水辺の生き物等）の飼育再開。
- 各種支援を頂いての園外保育（自然散策・魚つかみ・雪遊び等）。
- ストレスを解消するために、子供の遊びを私立大学と共同研究。
- 保護者にアンケートを実施しての意見調整と共通理解。

2 認可外保育施設、定員20-50名、
2014年1月の線量率：毎時約0.25マイクロ・シーベルト

- 近くの公園を利用した園外活動を2013年6月から再開。
- 購入したマット・平均台・跳び箱を使った遊びを行い2013年11月から運動教室の開催。子供も喜んで取り組んでいる。
- 保護者会で研修の資料をもとに放射能についての説明。
- 食材のモニタリングを実施（月・水・金）。

3 認可保育施設、定員50-100名、
2014年1月の線量率：毎時約0.1マイクロ・シーベルト

- 砂の交換・プールの交換等、目に見えるもので安心してもらい、遊びにつなげていけた。
- 保護者の方に不安があるときは個別で十分話し合い、気持ちに添えるようにした。外遊びの時間制限解除に不安のあるお子さんは希望時間で遊ばせる等。
- 運動機能向上のための取り組みを運動会で披露して保護者の方に喜んでもらえた。

4 認可外保育施設、定員50-100名、
2014年1月の線量率：毎時約0.1マイクロ・シーベルト

- 保護者を対象に福島大学の先生に講演をしてもらった。
- 外遊びの制限をなくし砂遊びを再開した。
- 職員間での意識統一を図るために園内研修での放射線安全確保対策の勉強会を開催。
- 補助金活用により子供たちの体力アップと精神面が充実している（動植物へのふれあい・遊び場の改善・遊具の活用等）。

5 認可保育施設、定員50-100名、
2014年1月の線量率：毎時約0.15マイクロ・シーベルト

- 担当職員による放射線についての話し合いを進める（調べてなっとくノートを各家庭に配布し保育参観時に話を進め共通理解を得た）。
- 避難者との交流を図った（大堰相馬焼体験）。
- 土に触れて地域の皆さんと花壇づくり活動を行った。

6 認可保育施設、定員50-100名、
2014年1月の線量率：毎時約0.15マイクロ・シーベルト

- 9月より外遊びの時間制限をなくす。
- 夏から散歩も通学路の利用を条件に近くの公園へ行くことが出来るようになった（線量測定する）。
- 職員間の情報・対応の見解のずれに対して積極的に研修に参加をして報告を受け埋めていった。

困っていることの事例

1 認可保育施設、定員50-100名、
2014年1月の線量率：毎時約0.2マイクロ・シーベルト

- 自然との共存の保育目標が実践できない。除染しても放射線量が十分に下がらない。雑木林である第2遊び場が使用できない。
- 園庭も、文科省が提示している数値より微妙に高い。それらを低減するのに要する費用は全て保育園の持ち出しで本来使いたい費用が減少する。
- 支援を頂いて園外活動を取り入れているが、その際に要する費用がかさむ。

2 認可保育施設、定員50-100名、
2014年1月の線量率：毎時約0.15マイクロ・シーベルト

- 園庭での遊びを取り入れたが、今秋、落ち葉を触ったりする園児がいたりして、どう対応するか判断が難しかった。
- これから雪が降った場合も同様、雪に触れさせていいのか検討中です。雪に触れることの線量は小さいです。雪が積ると線量が低下します。

3 認可保育施設、定員50-100名、
2014年1月の線量率：毎時約0.1マイクロ・シーベルト

- 福島産の食材の安全性については理解できてきているが、1人でも不安な方がいると給食で県産のものが使えないこと。保育園では魚料理を多く提供しているが、汚染水の海への流出により魚の影響についても心配される方が増えてきているので、安心してもらえる説明を考えていこうと心がけている。魚を含めてモニタリングが継続されています。

4 認可外保育施設、定員20-50名、
2014年1月の線量率：毎時約0.25マイクロ・シーベルト

- 外部施設等も多く活用したいが情報が少ない（その時の交通手段についても何かサポートがあったら知りたい）。

5 認可外保育施設、定員50-100名、
2014年1月の線量率：毎時約0.1マイクロ・シーベルト

- 徐々に線量も安定してきている中、遊具や砂場の再設置を考えているが、放射線が蓄積されている気がして、また線量が高くなってしまふことはないのか？再汚染の程度は、計測して確認することができます。降下物による再汚染は小さいと考えられます。

6 認可保育施設、定員50-100名、
2014年1月の線量率：毎時約0.1マイクロ・シーベルト

- 食材や飲料水については制限していることが当たり前になっているが、何が安心・安全なのだろうかという不安を抱きながら過ごしている。リスクは小さいので理解が得られれば特別な制限は不要です。

7 認可保育施設、定員50-100名、
2014年1月の線量率：毎時約0.1マイクロ・シーベルト

- 0.20マイクロシーベルトを超えた場合は園庭を除染している。
- 園の敷地内に連携施設から汚染された土が運び込まれ仮置き場になっているが近隣住民からの苦情もあり今後どうすれば良いのかとても不安である。市内では仮置き場の設置が進んでいない。

自然遊びをどうする？

虫や葉っぱに触ると危ないの？

地域の人材を活用し、測定に基づいて考える試み

なんで?どうして?と思ったり考えたりするから探求しようとする。

普通だったら通り過ぎてしまいが...

- 「触る vs 触らない」のどちらがよいの？
- どちらがよいか比較して、比較結果をみんなで考えるには？

原発事故前に自然遊びを盛んに行っていたこの施設では、原発事故後、放射線対策を熱心に行っていました。

放射線のリスクを小さくしたい、後で後悔したくないの一心でした。

その一方で自然豊かな環境で子どもを伸び伸びと遊ばせたいという思いも出てきます。

そんな中、放射線をご心配なさっておられる保護者の方から、施設の中の放射線をきちんと測って欲しいとの要望が施設に寄せられました。

そこで、福島高専の教員をお願いして、保護者や職員と一緒に施設内の放射線を計測することにしました。



空気サンプルングしています



GPS付き測定器(マップが簡単に使えます)

濃度が高くて量が少なければ線量は小さい

放射性セシウムの濃度が1kgあたり1万ベクレルと高くても、1gしかなければ、放射線セシウムの量は10ベクレルです。

10ベクレルの放射性セシウムが手に付いた場合の実効線量は毎時0.000002マイクロシーベルト程度です。

遊びの後、手が汚れていたら洗うようにしましょう。



比較的線量率が高いことから、この場所には近づかないことになりました。

園内で放射性セシウムの量が多い場所も確認

隅々まで放射線をモニタリングし、施設内の特徴をきちんと把握しました。



マツカサの濃度:1キログラムあたり2キロボクレル程度のことでもあてはまっています。(おおよそ10gのマツカサだと20ベクレル程度になります)



洗ったどんぐりでは、放射性セシウムは検出されませんでした。支障品があれば工作などに支障品を使うのもよいでしょう

研修後の取り組み

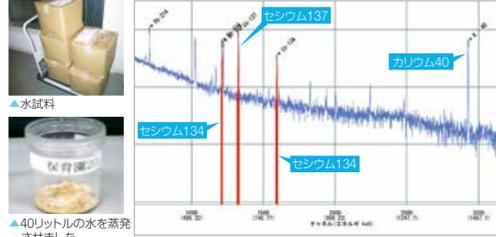
自治体をサポートする専門家の援助を受けた取り組み

東京電力福島第一原子力発電所から36kmの距離のいわき市内の北部にある保育所は、津波による直接の被害はなかったものの、震災で園舎やプールが壊れてしまい、海外からの資金援助でプレハブの園舎を建てて保育にあられています。

市内では線量率の高い地域にあることから、これまで外遊びやお散歩を完全に制限して来られました。室内での遊びを工夫して対応してこられました。限界を感じられる一方で、行政機関からの情報を信じ切れず、どうしたらよいか悩まれておられました。

そのような状況の中で県の保育士対象研修を受けられた保育士の方からご相談を頂きました。研修で水道水の放射性セシウム濃度が低いことを学んだ彼女は、研修後に保育所でそのことを同僚に伝えましたが、皆さん半信半疑でした。

行政のデータは信じられるの？
そこで彼女は、水道水の濃度を測って欲しいという要望を届けて下さったのです。しかも、検出限界未満ではなく、値を出して欲しいという条件で。



放射線セシウムが検出されています(ゲルマニウム半導体検出器)

散歩の再開に向けて...

この学習会後に、この保育所では、いわき市の線量低減サポーターをされている福島工業高専の布施先生のご協力を頂き、保育所周辺の線量率マップを作成し、お散歩の再開に向けて話し合いを進めておられます。

布施先生は、保育所の保育士や保護者を対象にした食品の放射能モニタリング体験学習など地域に密着した活動をされています。



試料を均一にして容器に詰めています(試料の高さも重要です)

伊達市での取り組み

こどもの遊びの工夫

日本感覚統合学会 石井 孝弘



日本感覚統合学会として被災地の子供たちの遊びを支援するという事は、ごく当たり前の活動として始まったと言えます。それは、子供たちは遊びを通して成長発達するので、被災地の子供たちが屋外で十分な遊びを行うことができないことは、そのまま子供たちの成長発達が阻害されることとして理解することができたからです。ですので、支援は自ずと子供の遊びを支援することになりました。

本学会の土田玲子会長の地元であり、親戚などがいること、母親グループと連携をとることができることから、伊達市への支援をはじめることとなりました。土田会長による講演会と遊びの支援を同時に開催することで、子供たちの遊びが重要であることを保護者そのほか子供に関わる関連職にも理解してもらうことから始めました。子供たちへの具体的な遊びの支援では、ちびっこ広場で継続的に行う中で、子供達自身がとても活発な遊びをすることができたのではないかと考えています。子供たちは本来自然の中で体を動かして遊ぶことで発達するので、それが実践できたと考えています。

課題としては、行政を含む関係者がお互いに手探りの中で、お互いを十分に理解できていないことが考えられます。好奇心を刺激した結果、子供たちが挑戦的な遊びをすることに、効果と判断するか、危険性を増すよくないことであるのか見解に相違が生じました。このため、今後、本学会と行政と十分に意思疎通を図る必要があると考えられます。

除染情報プラザアドバイザーからのメッセージ



除染情報プラザアドバイザー 庭野 定次

現在、福島県内の各所において、たくさんの作業員の方により除染作業が進められています。表向きは以前と変わらぬ日常生活が戻りつつある印象を受けますが、現実には、まだたくさんの方が放射線に対する不安から避難されています。除染情報プラザにも、「除染したけどまた放射線が上がった」「自分たちで取った土はどうしたらよいのか」といった相談が寄せられます。今回の研修会に参加させていただき、多くの保育園で、不安解消の方法が見出せず、その先の一歩を踏み出せないでいることを知りました。震災事故後3年が経とうとしています。最初の頃に比べて、放射線を取り巻く状況は変わってきています。そういった事実を知った上で、私たちも意識を変え、少しずつ行動を見直していけたらと思います。その際に、専門家に助言を求めるとよいでしょう。除染情報プラザも皆さま方の支えになればと願っています。



NPO法人放射線環境安全カウンセラー、除染情報プラザ登録専門家 佐瀬 卓也

今回初めてプログラムに参加させて頂きました福島県出身の佐瀬です。先生方皆さんは、震災以降多くのご苦難を経験し、中でも子ども達を護り育むための努力を日々為されてきましたこと、強く存じております。改めて厚く御礼申し上げます。

日本には放射線に関わる専門家(放射線取扱主任者、診療放射線技師、大学等研究者等)が多数存在するにも拘らず、なかなか現地福島の方々に直接サポートすることが適わずにありました。しかしながら徐々にではありますが、今回のような国、県主催のプログラムや環境省除染情報プラザの線量測定サポート、専門家派遣制度などが整いつつあります。園外活動の再開時など、先生方や保護者がまだ不安になる場面も有るかと思います。その折にはどうぞ我々や除染情報プラザにお声掛け下さい。皆さんと共に歩み、問題や不安を一つずつ解消していくこと、これも専門家の一使命であると考えております。子ども達のため、我々皆さんのため、明るく楽しい福島を取り戻しましょう!

日本放射線安全管理学会メンバーからのメッセージ



長崎大学 先端生命科学支援センター 技術補佐員 三浦 美和

今回初めて直接表情を拝見しながら、福島県の子供たちを支えている保育士の皆様のお話を伺うことができました。わたくしは子供を保育園にお願いしている一人の母親 プラス(少し)放射線専門家スタッフという立位置で、今回参加させて頂きました。そのためか、こちらが示す専門的な情報よりも、逆に保育士の先生方の表情から、ほっと温かい安心感を多く与えて戴いた気がします。保護者、そして子供たちの気持ちに添う心遣い。変化していく環境に対応しながらの保育。保育士の先生方の日々のがんばりが、子供たちを救い、支えているのだと、改めて感じました。今後、皆様の不安の少ない保育取組みに繋がるような活動を目指したいと思っております。有難うございました。



長崎大学 原爆後障害医療研究所 技術職員 福田 直子

福島市および郡山市でのフォローアップ研修事業に初めて参加させて頂きました。私は震災後、福島県内に滞在された方々の内部被ばくの測定に携わって来ましたが、もう今となっては殆どの方で内部被ばくの心配はなくなったことに、一つの安堵感を持っておりました。しかし、今回の研修に参加させていただき、日々お話しと接していただける保育士の先生方の現場の状況は簡単ではないことも多いと実感いたしました。この機会に、他の園の方法を参考にしたり専門機関に依頼するなど、先生方の負担が増えないように、そしてまずは先生方の不安や心配を出来るだけ解消して、先生の明るい笑顔を見て園児が安心して過ごせるような環境であって欲しいと願っております。



広島大学 自然学研究所 支援センター アインテック総合部門 教授 日本放射線安全管理学会 編集委員長 中島 覚

屋外遊びが制限されている中での子どもの運動量確保に向けた努力に、また給食でも新鮮な福島産の食材を利用されようとする努力に対して頭が下がります。そして、保護者や、場合によっては園長に理解していただくために苦勞されていることがわかりました。

そのような活動の際は、放射能に関する基礎的な理解が大切だと考えます。支援事業を通して、あるいはホームページなどを通して情報を得ることが出来ます。中にはそれって本当?と疑問を持たれる情報もあろうかと思えます。どの情報が正しいかを見極めるためには、信頼のおける専門家と繋がりが重要とよいです。情報の確認には、先生方の横のつながりが威力を発揮します。

認可保育園、認可外保育園で情報等に差があることを知りました。不利な立場にあってもぜひ情報を集めていただき、対応をお願いしたいと思います。



長崎大学 教授 先端生命科学支援センター 教授 日本放射線安全管理学会 企画委員会委員長(次期会長) 松田 尚樹

原発事故から3年近くが過ぎようとしています。今回の研修の会場になった杉妻会館は3年前の3/14から私がしばらく滞在した宿舎、ビッグパレットふくしまは川内村全村避難を受け入れていただいた特別な場所でした。そんな会場で3年という時間を実感しつつ、状況がようやく落ち着いてきた反面、多くの具体的な課題をお聞きしました。今や皆様のバックには放射線安全管理学会の会員約350名が控えています。放射線を測ったり、防護することが得意なメンバーばかりです。どんな些細なことで結構ですので、どうぞお気軽にご相談ください!最後に.....、福島よりも大量に放射性物質を摂取し、小児甲状腺がんの発生したチェルノブイリ周辺地域でも、事故後に生まれた子供たちの被ばくによる甲状腺がんは見られないんです。福島だったらもうすぐ3歳かな.....。